

日本での就職を目指す 日本語初級レベル 非漢字圏理系院生対象クラスにおける日本語産出活動の試み

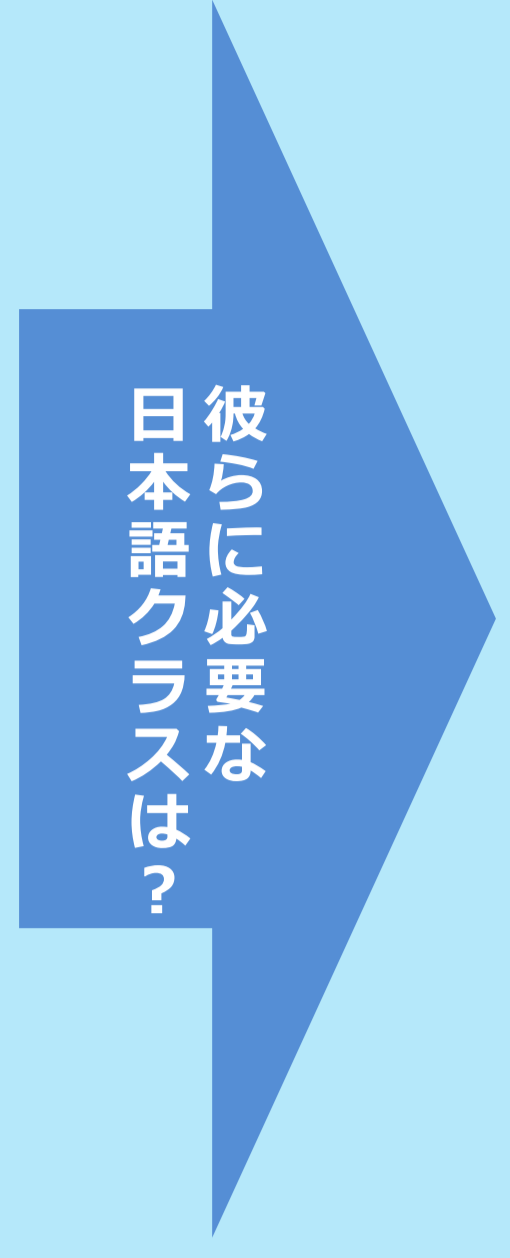
田代桜子・築地伸美

愛媛大学 国際連携推進機構 国際教育支援センター

sakurako.tashiro@gmail.com

理系院生の日本語学習における問題点

- ①日本語クラスを受講できない・欠席率が高い
 - ・研究活動が忙しい
 - ・初級は文法積み上げ式が中心のため、ついていくことが難しい
- ②研究活動は英語中心となっている
 - ・モチベーションが上がらない
 - ・日本語を学んでもすぐには活かせない
- ③自主学習の時間が取れない
 - ・日常生活も忙しい
 - ・家族同伴の学生は家庭の事情もある



授業目標として掲げたこと

- ①文字による産出能力の向上
 - ・文字の定着をめざす
 - ・非漢字圏出身では、文字に抵抗感を抱いている学習者が多い
 - ・「書く」活動中心のクラスを設定する
 - ・初級クラスの多くは会話活動が中心となっている
 - ・就職を目指す学習者は就活中・職場・日常生活で文字による産出が必要となる
- ②学習者に必要な表現や語彙の習得
 - ・モチベーションの向上をねらう
- ③e-learningを用いた自律学習の促進
 - ・授業内容の確認や課題の提出をmoodle※で行う
 - ・自律学習のきっかけ作りをめざす

※愛媛大学のe-learningの授業を支援する学習マネジメント・システム

主な授業内容 (2018年後期開講 週1×15回 受講生4名)

第1回 ガイダンスとmoodle講習、環境設定

1. ガイダンス

2. moodle講習

学内メディアセンター教員がmoodleのログイン方法や基本操作を英語で講習

3. PC環境設定

学習者のPCの言語設定 (日本語のDL) 等を実施
教員と学生がそれぞれの問題に対応



Moodleの英語訳が不十分
→初級の学習者には難しい

ITスキル差やPCの問題
→個人に任せるのは難しい

第2回 タイピング練習

1. 使用言語と日本語入力との切替方法の復習

2. ローマ字入力の方法学習

促音や長音、記号などの入力方法を確認

3. ひらがな・カタカナのタイピング練習

『まるごと+』のBasic Trainingを利用

4. moodleで復習

自己紹介など簡単な文を書いて投稿

つまづきやすいところを確認する

・定着を図る
・ローマ字入力
文字と音の結びつきに気付く

第9回 「ほしいもの・したいこと」

予習

moodleで「自分が (今) やりたいこと」「希望する仕事、なりたいもの」などを作文 (英語 (自分の書ける言語) 可)

1. 文型確認と練習「～たいです (～たいと思っています)」

- ・「旅行したい」「～を見たい」など、主に日常における「したいこと」を例文で確認
- ・学習者自身が「今、したいこと」について作文
- 学習者の作文: 「しまねにりょこうしたいと思っています。」
「日本の大きいきぎようにしゅうしょくしたいです。」等

2. eメール練習

- ・「～したいのですが」と許可を求める表現を使い、eメール文の作成練習
- ・指導教員や授業担当の教員に向けたメールという設定で、学習者が自分の事情に合わせて作文

3. エントリーシート練習「(日本の) 会社で何をしたいか」

- ・エントリーシートに、今回学んだことを使ってどんなことが書けるか作文

学習者の作文:

わたしのせんもんは、どうぶつさいぼうこうがくです。たべもののアレルギーについてけんきゅうしています。このけいけんをいかして、アレルギーのおこらないおかしをつくりたいです。

既習内容

教員との会話によって作成

4. タイピング (日本語入力) 練習

- ・授業中の作文をmoodleに入力 (授業内に終わらなければ宿題)



授業の結果

1. 文字への抵抗感の軽減

就職相談員のヒアリングより (ある学習者の例)

- ①学習者から就職相談員へ、自分で書いた日本語のメールが届くようになった (これまでは英語、または翻訳機能を利用して作成した日本語文章をコピー＆ペーストしていた)
- ②自分のPCを持って就職相談に訪れ、相談員と一緒に日本語とフランス語表記を切り替えながら、日本語の企業サイトを見るようになった
このころ、エントリーシートを日本語で書きたいと話ようになった

2. 必要な表現や語彙の習得、モチベーションの向上

受講生とのやりとりより

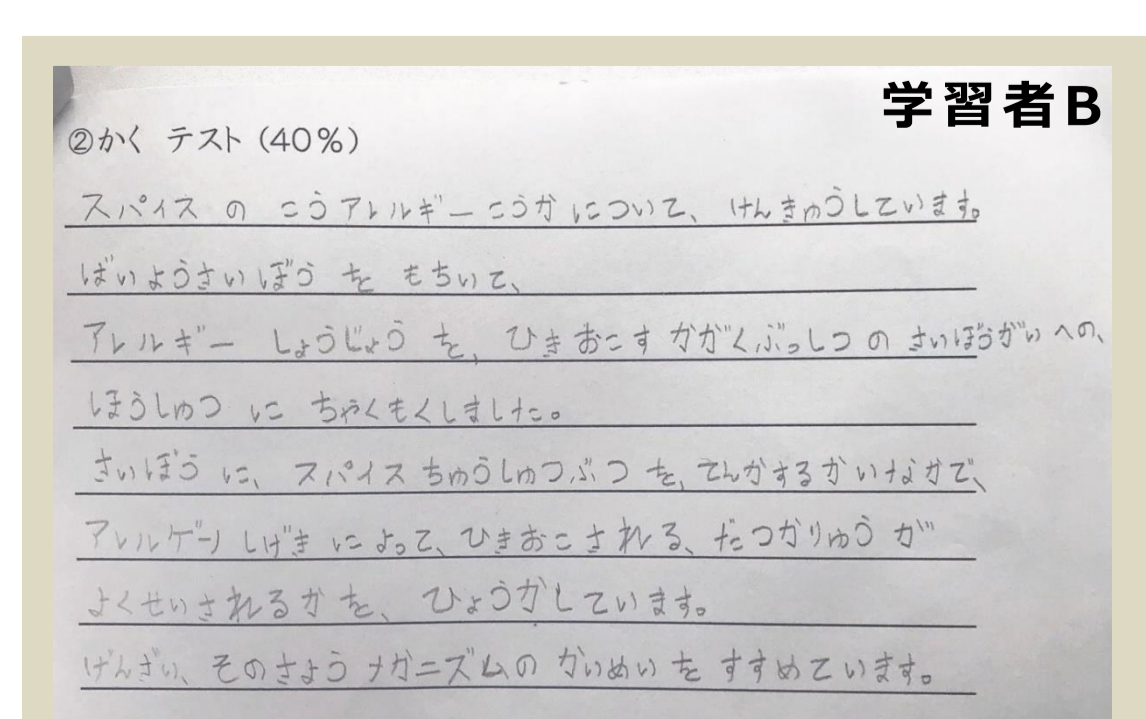
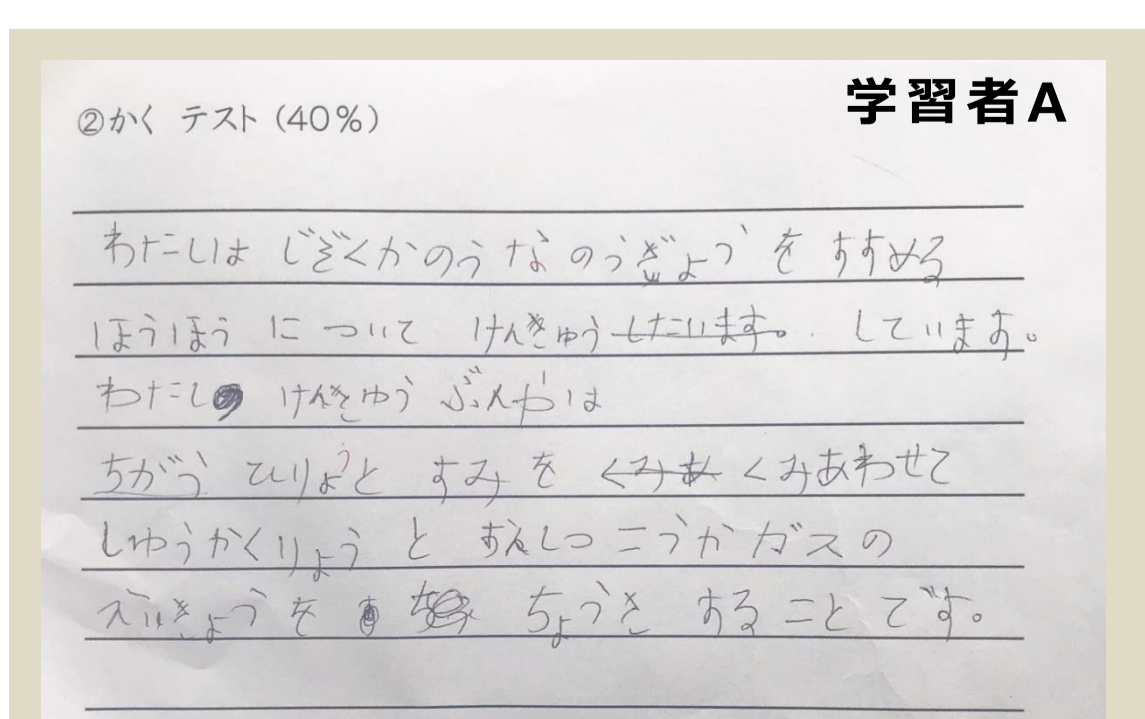
- ①moodleの予習で研究室の人に相談したり、翻訳機能を使ったりしながら日本語の文章を作成した
教師の音読を聞くと研究室で耳にする言葉が多くあり「自分に必要な言葉はこれだ」と感じた (教師が簡単な文を作ったが、自分たちが持ってきたものを使って練習したいと思った)
- ②作文のテストでは自分のノートを見てもよかったが、必要性を感じたので、暗記して臨んだ

授業中やテストの結果より

- ①既習の事項 (動詞の活用形) を自主的に復習し、接続詞などにも注目して、書いたり読んだりしながら覚えようとしていた
- ②自分の専門すら日本語で言えなかった (覚えなかった) 学習者が、自分の必要とする単語を覚えた
それに伴い、日本語学習に関心を持つようになった
- ③ひらがなが十分に定着していなかった学習者も、授業を経て、ひらがな・カタカナ交じりの文が書けるようになった



学習者2名の最終試験 (自分の研究についての作文) →



見えてきた課題 | 今後に向けて

①e-learningについて

- ・多忙時はmoodleにアクセスする余裕すらない
- ・ITスキルによってはe-learningは必ずしも手軽ではない
- ・文字が未定着の学生にとっては、短い作文やタイピングでも、かなりの時間を要する
- 取り組みやすいe-learning学習の方法や内容を再検討する

②クラスの形態について

- ・初級学習者が自分について発信するための活動を支援するには個別対応が必須となる
- 必要な語彙や表現を学習者自身がつけられる教材づくりをめざす

③レベル差

- ・受講条件に「ひらがな・カタカナが読めること」と設定していたが、実際には習得が不十分な受講生もいた
- ・「書く」活動に至るまでに確認する事項が多く活動の焦点が絞りきれないこともあった
- 授業のデザインや内容を再確認し
学生に目標を示す

参考文献

国際交流基金『まるごと+ MARUGOTO Plus』
<http://marugotoweb.jp/>